

## 解答

一

- 問一 あげくのはて  
問二 イ  
問三 エ  
問四 思春期 〽 とする（人）  
問五 ウ  
問六 オ  
問七 黙す  
問八 ● 黙って ● 内容は  
問九 ウ  
問十 ア  
問十一 沈黙する時間を持ち、自分自身と対話したうえで、他者の声に耳を傾け、他者の気持ちを推し測る（ことで成り立つ。）  
問十二 A 責「め」 B 標語 C 自認

二

- 問一 オ  
問二 オ  
問三 エ  
問四 学校へきち  
問五 イ  
問六 ウ  
問七 朝から  
問八 平凡で単調だと感じていた毎日にくそ新しい知識の学びや面白いことが満ちていて、二度とくり返されることのない貴重な時間だということ（を学んだ。）

## 解説

一

- 問十一 本文の後半に「自分自身の内なる声を聞くことができこそ、他者の気持ちを推し測ることができ、その声に耳を傾けることができると思いますし、自分自身との対話ができるこそ、他者との対話もできると思うのですが。」と、筆者の主張が述べられています。

二

- 問八 本文の最後で、ずる休みをした「私たち」は、「すぐ二人とも、自分の学校の今日の教室を連想した。」「あして同級のひとたちは習っていたのだ。」「永久に今日の教室のことを、私と赤木さんは知ることが出来ないのだ。」「私たち二人の知らないことを教えられないことを、同じ級の人には知ったり聞いたりしてしまったのだ!」とあり、平凡で単調だと感じていた学校生活の毎日で新しい知識を得る喜びやそれがいかに貴重な時間であるかを感じ知った様子がうかがえます。